

2015年11月26日

## ウェザーニューズ、第二回花粉飛散傾向を発表 来春の花粉シーズンは2月初めの到来予想

～飛散のピークは、西～東日本は2月下旬～3月中旬、北日本は3月中旬からの予想～

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区 代表取締役社長：草開千仁）は11月26日、2016年の花粉シーズンにおける全国の“スギ・ヒノキ花粉飛散”傾向を発表しました。本発表は、花粉症に悩む方がシーズン花粉傾向を把握し、早めの対策に役立てていただくことを目的としています。2016年のスギ・ヒノキ花粉は、2月初めから関東や九州を中心に飛散が始まる予想です。その後、2月中旬にかけて東海や近畿など東～西日本の広範囲で飛散が始まり、3月中旬にかけて飛散エリアは東北へ拡大していく見込みです。飛散開始後、7～10日間程で飛散が本格化し、3月中には西～東日本の広範囲で飛散のピークを迎えそうです。また、ヒノキ花粉のピークは3月中旬～4月上旬の予想です。2016年シーズンの花粉飛散量は、全国的に平年より少なめの予想ではありますが、西日本では2015年の約1.5～2倍となるため、油断はできません。花粉症には早めの対策が効果的なので、飛散開始の2週間前までを目安に準備しておくことをおすすめします。

### ◆来春の飛散時期傾向

#### ～飛散開始時期～

スギの雄花は、冬の寒さで休眠から目覚め、寒さがピークを過ぎて次第に暖かくなると、花粉を飛ばし始めます。

花粉の飛散開始時期に影響する12月末～2月の気温は、北日本ではほぼ平年並、東～西日本では高めとなる予想です。2016年のスギ・ヒノキ花粉の飛散開始時期は、全国的に平年並のところが多くなる見込みですが、東海や四国（太平洋側）、九州では平年よりやや早めとなるところもありそうです。

早ければ2月初めには九州や関東で飛散が始まるところがあり、2月中旬には東海や西日本の広範囲、2月下旬には北陸や東北でも飛散が始まる予想です。

ただ、飛散開始時期は1月末以降の暖くなるタイミングに大きく左右されるため、花粉シーズンが近づいてから再度、最新の情報をご確認ください。なお、ウェザーニューズでは、冬の天候（2015～2016年）を加味して花粉の飛散開始時期を予想しています。また、飛散状況については花粉観測機『ポールンロボ』を使用し、1日に10個の花粉を観測した日が2日以上あった場合にそのエリアの飛散開始と定義し、発表していきます。



## ～飛散ピーク時期～

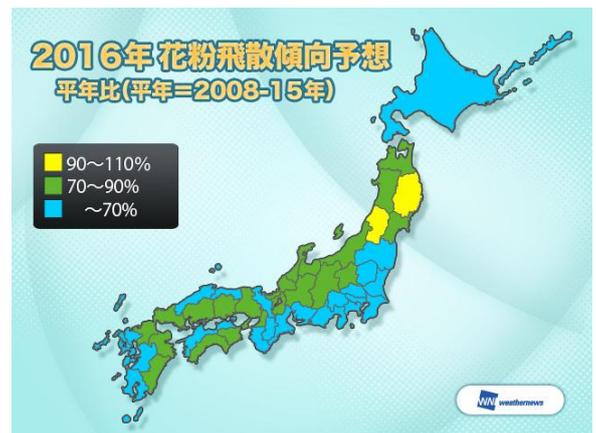
九州や四国で2月末～3月初め、中国地方や近畿、関東、東海で3月上旬～中旬、北陸で3月中旬～下旬、東北で3月下旬～4月上旬にスギ花粉の飛散がピークとなる見込みです。スギ花粉のピークが過ぎた後は、桜の花が咲く頃にヒノキ花粉の飛散が増え、九州や四国では3月中旬～下旬、中国地方や近畿、関東、東海では4月上旬～中旬にヒノキの花粉飛散量がピークとなる予想です。

## ◆来春の飛散量の傾向

2016年のスギ・ヒノキ花粉シーズンの花粉飛散量は、ほぼ全国的に平年（2008～2015年平均）より少なくなる予想で、平年比が90%以上となる山形県や岩手県でも平年を上回る量の花粉が飛ぶことはない見込みです。ただ、風が強い日や雨の降った翌日などには一時的に花粉の飛散が増える可能性があり、注意が必要です。

平年より少ない予想ではありますが、昨シーズンの花粉飛散量が少なかった九州北部や四国では2015年比が約1.5～2倍となる見込みで、2015年に症状が軽かったとしても油断はできません。

花粉症対策は早めに始めるほど効果が出やすく、飛散開始の約2週間前を目安に始めるのが良いと言われています。2月以降は次第に花粉の飛散量が増えていく予想のため、1月から対策を始めるのがおすすめです。

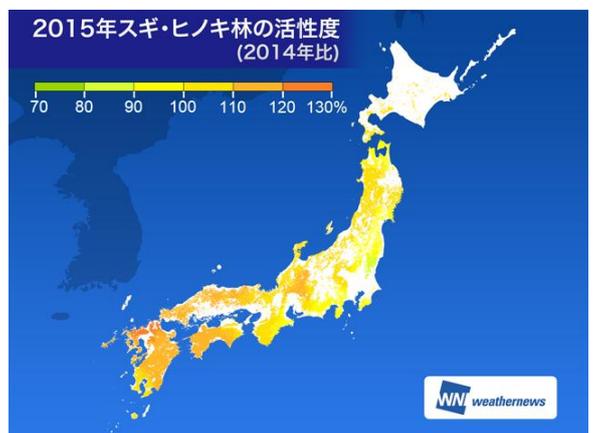


## ～全国の花粉飛散量予想～

ウェザーニューズでは、①スギ・ヒノキ木の活性度、②2015年夏の天候、③年ごとの飛散量傾向（飛散量が多い表年・少ない裏年の関係）、④『雄花リポート』を加味して、花粉の飛散量を予想しています。

### ①スギ・ヒノキ木の活性度

花粉飛散予測には、衛星データから得られた全国の森林における雄花の生長状況も参考にしています。今回用いたのは、千葉大学環境リモートセンシング研究センターと共同で研究を進めてきた「光合成有効放射吸収率（植物が光合成に有効な波長の光を吸収する割合；FPAR）」から解析した森林の活性度を示す指標で、この値が高いほど植物は光合成を活発に行い、スギの雄花が多くなると考えられま



す。この指標を用いて解析した結果、2015年夏の森林の活性度は、北日本や東日本で前年と同程度か低くなり、西日本では前年より高くなりました。このことから、2016年の花粉飛散量は、北～東日本では2015年と同じくらい少なめ、西日本では2015年より多めとなる傾向があると考えられます。

## ②2015年夏の天候

一般的に、よく晴れて暑い夏ほど植物の光合成が盛んになり、雄花の生産量が多くなるという理由から、スギ・ヒノキ花粉の発生源となる雄花の生産量は前年の夏の天候との相関が高いと言われています。（北海道のシラカバ花粉も同様。）

2015年の夏は、北～東日本は太平洋側を中心に晴れて暑い日が多くなりましたが、西日本では中四国～九州を中心に曇りや雨の日が多く、晴れて暑い日が平年より少なくなりました。北～東日本は広範囲で雄花の生育に適した天候でしたが、西日本は九州など西のエリアほど雄花の生育に不向きな天候となりました。

## ③年ごとの飛散量傾向

花粉の飛散は多い年と少ない年が交互にやってくるが多く、花粉が多く飛散する“表年”の翌年は、飛散量が減少する“裏年”となる傾向があります。

2016年の花粉シーズンの北海道や西日本は“表年”となり、2015年より花粉の飛散量が増加する見込みです。一方、東北や東日本は“裏年”となり、周期的にも前年より飛散量が少なくなる傾向があります。ただ、近年の九州では“表年”“裏年”の飛散量の増減があまり明瞭ではなく、“表年”“裏年”による増減より、夏の天候に大きく影響される傾向があります。

## ④雄花リポート

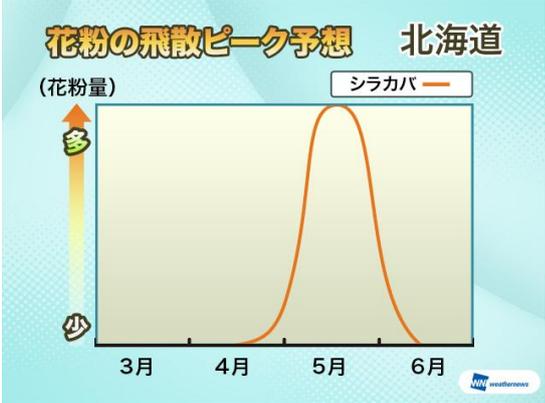
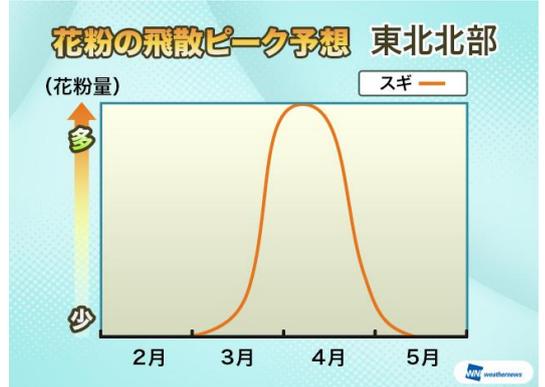
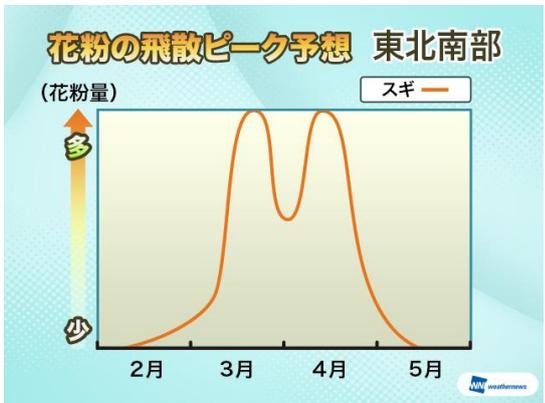
ウェザーニューズには、ウェザーリポーターと呼ばれる全国900万人の会員から、スマホアプリ「ウェザーニュースタッチ」を通して、天気や植物などに関する様々なリポートが1日に2～3万通寄せられます。今回の花粉飛散予想では、ウェザーリポーターと花粉の発生源となるスギ雄花を調査した『雄花リポート』（11月6日～16日実施）を活用しています。『雄花リポート』によると、北～東日本を中心に雄花の量は「昨年と同じくらい」「昨年より少ない」という報告が多く、西日本では「昨年より多い」という報告が多くなりました。下記の写真は、期間中にウェザーリポーターから届いたスギの『雄花リポート』です。

<p>青森県中津軽郡</p>  <p>少ない気がします</p>	<p>福島県いわき市</p>  <p>いつもの年より少 なく感じます</p>	<p>茨城県筑西市</p>  <p>昨年よりも少ない気 がします</p>	<p>岐阜県岐阜市</p>  <p>この木は毎年見てい ますが、今年は雄花多 めな感じです。</p>
<p>京都府与謝野郡</p>  <p>例年よりも多い。</p>	<p>山口県長門市</p>  <p>これが一段と成長す ると思うとゾッとし ます！</p>	<p>愛媛県西条市</p>  <p>来年も花粉でアズル のかな？</p>	<p>福岡県朝倉郡</p>  <p>日が当たる所は沢山 付いてますね！</p>

①～④を総合的に解析した結果、2016年シーズンの花粉飛散量は、西日本を中心に2015年より多く、北日本や東日本を中心に2015年より少なくなる見込みです。

全国のウェザーリポーターから、症状を和らげるには花粉を体内に取り込まないようにする対策が最も有効だというコメントがこれまでに数多く寄せられています。飛散開始の約2週間前を目安に早めの対策をとることをおすすめします。

◆エリアごとの花粉飛散傾向

エリア	スギ花粉の飛散開始時期 (平年と比較)	スギ・ヒノキ花粉量 (2015年と比較)	スギ・ヒノキ花粉飛散時期予想 (北海道はシラカバ花粉)
北海道 (シラカバ花粉)	同じくらい	156%	<p>スギ・ヒノキ花粉飛散時期予想 (北海道はシラカバ花粉)</p> 
東北北部	同じくらい	82%	<p>花粉の飛散ピーク予想 東北北部</p> 
東北南部	同じくらい	80%	<p>花粉の飛散ピーク予想 東北南部</p> 

シラカバ花粉の飛散開始は寒さが緩む4月下旬くらいで、平年並となる予想です。ゴールデンウィーク頃から飛散量が増加して、5月中旬にピークを迎え、6月中旬には少なくなる予想です。

2015年の夏は、一部の地域では前年より晴れる日が多かったものの、日照時間は平年より少なくなりました。

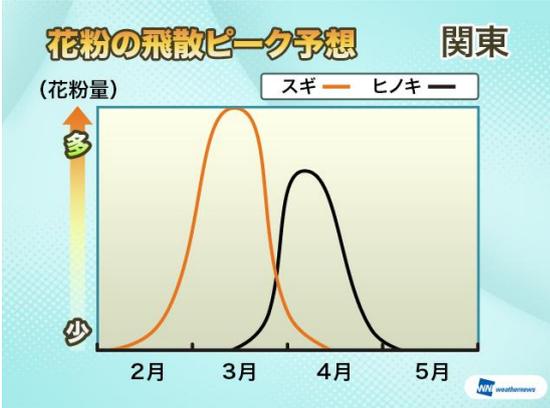
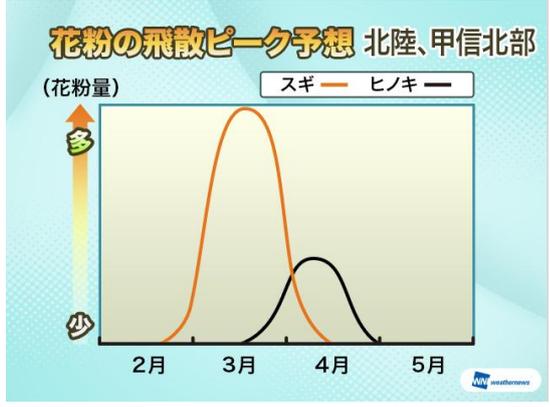
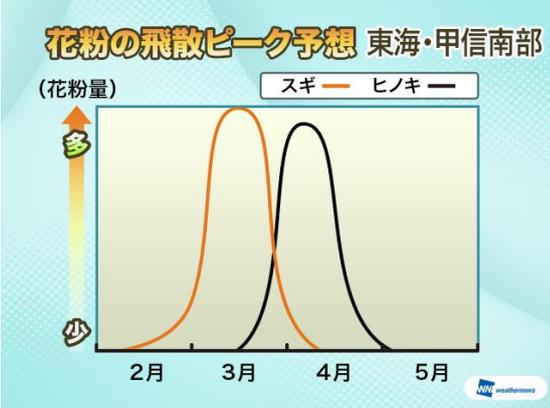
夏の天候や飛散量の傾向から、2016年花粉シーズンのシラカバ花粉飛散量は平年の70%程度、2015年の160%程度となる予想です。

一時的に寒さが緩む日が出てくる3月上旬にはスギ花粉の飛散が始まる予想です。飛散開始時期は2015年シーズンおよび平年と同じくらいで、その後7~10日間程で本格飛散シーズンに突入し、3月下旬~4月上旬が花粉飛散のピークとなる見込みです。

また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は、平年の80~90%程度、2015年シーズンの70~90%となる見込みです。飛散量は平年より少なめとなる予想ですが、今年の春に症状が出た方は油断せずに対策をしてください。なお、東北北部で春に多く飛散するのはスギ花粉で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。

2月中旬になると一時的に寒さが緩む日があり、太平洋側から花粉が飛び始め、3月初めにかけて飛散エリアは日本海側に広がる予想です。その後7~10日間程で本格的な飛散シーズンに突入し、3月中旬に飛散のピークとなる見込みです。寒の戻りで一時的に飛散量が少なくなることもありますが、寒気が過ぎ去る4月中旬には再び増加する予想で、大量に飛散する日もありそうです。

また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は、平年の60~100%程度、2015年シーズンの70~100%となる見込みです。飛散量は平年より少なめの予想ですが、2015年シーズンに症状が出た方は油断せずに対策をしてください。なお、東北南部で春に飛散するのは主にスギ花粉で、ヒノキ花粉はほとんど飛散しません。

<p>関東</p>	<p>同じくらい</p>	<p>80%</p>	<p><b>花粉の飛散ピーク予想 関東</b></p> 
<p>北陸・甲信北部 (長野県)</p>	<p>同じくらい</p>	<p>90%</p>	<p><b>花粉の飛散ピーク予想 北陸、甲信北部</b></p> 
<p>東海・甲信南部 (山梨県)</p>	<p>同じくらい</p>	<p>82%</p>	<p><b>花粉の飛散ピーク予想 東海・甲信南部</b></p> 

1月末～2月初めに一時的に寒さが緩むタイミングがあり、例年、飛散開始が早い傾向にある関東は、2月初めからスギ花粉の飛散が始まる予想です。その後、7～10日間程で本格的な花粉飛散シーズンに入り、3月上旬～中旬がスギ花粉飛散のピークとなる見込みです。スギ花粉のピークが過ぎた後は次第にヒノキ花粉が飛び始め、4月上旬にはヒノキ花粉の飛散がピークを迎える地域が多くなる予想です。

また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は、平年の40～70%、2015年シーズンの60～100%程度となる見込みです。シーズンを通した飛散量は多くはありませんが、風が強い日や雨の翌日は一時的に多く飛散することがあるので油断できません。例年、2月以降は花粉の飛散量が増えていくため、油断せずに早めに対策するのがおすすめです。

2月下旬になると次第に寒さが緩み、スギ花粉の飛散が始まる予想です。その後、7～10日間程度で本格飛散シーズンに突入し、3月中旬～下旬がスギ花粉飛散のピークとなる見込みです。北陸のヒノキ花粉は元々少ないですが、ピークは4月上旬～中旬になりそうです。

また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は、平年の70～90%となる見込みです。また、2015年シーズンと比べると新潟県や長野県では70～80%程度、その他の地域では100～110%となる見込みです。飛散量はそれほど多くなりませんが、風の強い日や雨の翌日は一時的に多く飛散することがあるので油断できません。なお、例年、北陸で春に飛散するのは主にスギ花粉で、ヒノキ花粉は少ない傾向にあります。

2月初めになると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、例年、飛散開始が早い傾向にある東海では、2月初めから静岡県や三重県方面からスギ花粉の飛散が始まり、その後、2月中旬にかけて内陸でも飛散が開始する予想です。飛散開始後7～10日間程で本格的な花粉飛散シーズンに突入し、3月上旬～中旬がスギ花粉飛散のピークとなる見込みです。スギ花粉のピークが過ぎた後は次第にヒノキ花粉が飛び始め、4月上旬にピークを迎える地域が多くなりそうです。

また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は、平年の40～80%と少ない予想ですが、2015年シーズンと比べると三重県では190%、岐阜県では150%程度で前年を上回る予想になっています。静岡県・愛知県・山梨県では2015年比が50～80%と少ない予想ですが、風が強い日や雨の翌日には一時的に多く飛散する可能性があり、油断はできません。

近畿	同じくらい	139%	<p>2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、2月初めには近畿南部でスギ花粉が飛び始める予想です。飛散開始前線は次第に北上し、京阪神では2月中旬、近畿北部では2月下旬に飛散開始となる見込みです。その後、7~10日間程で本格的な花粉シーズンに突入し、3月上~中旬がスギ花粉飛散のピークとなる予想です。また、スギ花粉のピークが過ぎる頃にはヒノキ花粉が次第に飛び始め、4月上旬に飛散量のピークを迎える地域が多くなりそうです。</p> <p>また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は平年の60~90%となる予想です。また、飛散量が少なかった2015年シーズンと比べると、奈良県や和歌山県では180~200%、その他の府県では120~130%となる予想です。飛散量は平年よりやや少ない見込みですが、前シーズンを上回る予想なので、油断せずに対策をしてください。</p>	<p><b>花粉の飛散ピーク予想</b> 近畿</p> <p>(花粉量) スギ — ヒノキ —</p> <p>2月 3月 4月 5月</p>
	同じくらい	137%		
山陽	同じくらい	114%	<p>2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、山口県内の早いところで2月上旬から、その他のエリアでは2月中旬からスギ花粉の飛散が開始する見込みです。その後、7~10日間程で本格的な花粉シーズンに突入し、3月上旬~中旬がスギ花粉飛散のピークとなる予想です。スギ花粉のピークが過ぎた頃にヒノキ花粉が次第に飛び始め、3月下旬~4月上旬にはヒノキ花粉の飛散量がピークを迎える地域が多くなる見通しです。</p> <p>また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は平年の80~90%程度、2015年シーズンの110~130%となる見込みです。飛散量は平年より少ない予想ですが、2014年に比べて今夏は日照が増えた影響で、2015年シーズンよりはやや増加するため、油断せずに対策をしてください。</p>	<p><b>花粉の飛散ピーク予想</b> 山陽</p> <p>(花粉量) スギ — ヒノキ —</p> <p>2月 3月 4月 5月</p>

四国	同じくらい	167%	<p><b>花粉の飛散ピーク予想 四国</b></p>
	<p>2月に入ると一時的に寒さが緩むタイミングがあり、2月初めからスギ花粉の飛散が始まる地域がありそうです。その後、7~10日間程で本格的な花粉飛散シーズンに突入し、2月下旬~3月上旬がスギ花粉飛散のピークとなる見込みです。スギ花粉のピークが過ぎた後は次第にヒノキ花粉が飛び始め、3月中旬~下旬に飛散量がピークを迎える地域が多くなる予想です。</p> <p>また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は平年の50~90%、2015年シーズンの150~210%となる見込みです。飛散量は平年より少ない予想ですが、2014年に比べて今夏は日照が増えた影響で、2015年シーズンよりは増加するため、油断せずに対策をしてください。</p>		
九州北部	同じくらい	209%	<p><b>花粉の飛散ピーク予想 九州北部</b></p>
	<p>2月が近づくと一時的に寒さが緩むタイミングがあり、2月上旬からスギ花粉の飛散が始まる予想です。その後、7~10日間程で本格的な花粉飛散シーズンに突入し、2月下旬がスギ花粉飛散のピークとなる見込みです。スギ花粉のピークが過ぎた後は次第にヒノキ花粉が飛び始め、3月中旬~下旬飛散量がピークを迎える地域が多くなりそうです。</p> <p>また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は平年の40~80%の飛散量となる見込みです。ただ、2015年シーズンの飛散量が非常に少なかったため、2015年比が200%を超える予想の県が多くなっています。油断せずに対策をしてください。</p>		
九州南部	同じくらい	110%	<p><b>花粉の飛散ピーク予想 九州南部</b></p>
	<p>2月が近づくと、一時的に寒さが緩むタイミングがあり、2月初めからスギ花粉の飛散が始まる予想です。その後、7~10日間程度で本格的な花粉飛散シーズンに突入し、2月下旬がスギ花粉飛散のピークとなる見込みです。スギ花粉のピークが過ぎた後は次第にヒノキ花粉が飛び始め、3月中旬~下旬に飛散量がピークを迎える地域が多くなりそうです。</p> <p>また、夏の天候や年ごとの飛散量傾向、森林の活性度、『雄花リポート』をもとに予想すると、2016年シーズンの予想飛散量は鹿児島県で平年の40%程度、宮崎県で平年の70%程度となる見込みです。ただ、2014年に比べて今夏は日照が増えた影響で、2015年の100~120%程度となる予想です。油断せずに対策をしてください。</p>		

◆各都道府県の花粉飛散傾向

エリア	都道府県	花粉飛散量 (2015年比：%)	花粉飛散量 (平年比：%)	花粉シーズン イン予想	花粉シーズン アウト予想
北海道 (シラカバ花粉)	北海道	156%	67%	4月下旬	6月中旬
東北	青森県	65%	75%	3月上旬	5月中旬
	岩手県	93%	94%	3月上旬	5月中旬
	秋田県	90%	89%	3月上旬	5月中旬
	宮城県	99%	70%	2月下旬	5月中旬
	山形県	77%	97%	3月上旬	5月中旬
	福島県	71%	59%	2月下旬	5月中旬
関東	茨城県	73%	43%	2月上旬	5月上旬
	栃木県	63%	55%	2月上旬	5月上旬
	群馬県	79%	70%	2月上旬	5月上旬
	埼玉県	99%	63%	2月上旬	5月上旬
	千葉県	85%	52%	2月上旬	5月上旬
	東京都	81%	43%	2月上旬	5月上旬
	神奈川県	89%	49%	2月上旬	5月上旬
中部	山梨県	51%	43%	2月上旬	5月上旬
	長野県	72%	70%	2月中旬	5月上旬
	新潟県	78%	79%	2月下旬	5月上旬
	富山県	99%	89%	2月下旬	5月上旬
	石川県	111%	78%	2月下旬	5月上旬
	福井県	109%	76%	2月下旬	5月上旬
	静岡県	57%	58%	2月上旬	5月上旬
	愛知県	80%	61%	2月上旬	5月上旬
	岐阜県	145%	76%	2月中旬	5月上旬
	三重県	187%	59%	2月上旬	5月上旬
近畿	滋賀県	134%	78%	2月中旬	4月下旬
	京都府	126%	66%	2月中旬	4月下旬
	大阪府	128%	88%	2月中旬	4月下旬
	兵庫県	115%	79%	2月中旬	4月下旬
	奈良県	197%	56%	2月中旬	4月下旬
	和歌山県	184%	59%	2月上旬	4月下旬
中国・四国	岡山県	107%	84%	2月中旬	4月下旬
	広島県	110%	85%	2月中旬	4月下旬
	鳥取県	149%	65%	2月下旬	5月上旬
	島根県	124%	51%	2月下旬	5月上旬
	山口県	127%	88%	2月上旬	4月下旬
	徳島県	151%	86%	2月上旬	4月下旬
	香川県	153%	67%	2月中旬	4月下旬
	愛媛県	206%	53%	2月中旬	4月下旬
	高知県	182%	77%	2月上旬	4月下旬
九州	福岡県	243%	82%	2月上旬	4月下旬
	佐賀県	244%	44%	2月上旬	4月下旬
	長崎県	234%	62%	2月上旬	4月下旬
	大分県	248%	78%	2月上旬	4月下旬
	熊本県	129%	66%	2月上旬	4月下旬
	宮崎県	115%	73%	2月上旬	4月下旬
	鹿児島県	101%	37%	2月上旬	4月下旬
全国	-	100%	67%		

※平年値：2008年～2015年の8年平均飛散量

※花粉飛散量の求め方について

花粉の飛散量は、沖縄県を除く46都道府県に約1000台（2015年）設置された花粉観測機「ポールンロボ」が観測した数値をもとに算出されています。また、花粉飛散傾向の予想は、過去の花粉飛散量と前年の夏の天候やエリア別の飛散傾向、また全国から寄せられる『雄花リポート』、森林の活性度を分析した結果です。